

経費について

研修期間中のJSPSと国際協力員所属機関との経費分担は、以下のとおりです。

JSPSの負担分

①1年目(国内実務研修)

- ・語学研修費用(年20万円まで)
- ※JSPSは宿舍を保有しておりません。

②2年目(海外実務研修)

- ・海外研究連絡センター派遣時の、JSPS東京本部から派遣先センターまでの旅費
- ・滞在中の在勤手当、住居手当、海外旅行保険料、ビザ申請料等
- ・語学研修費用(年40万円まで)
- ・海外実務研修終了時の、派遣先センターからJSPS東京本部までの帰国旅費
- ・JSPS東京本部から国際協力員所属機関までの旅費
- ※家族同伴の場合、JSPSでは家族分の経費支給は致しません。

国際協力員所属機関の負担分

- ・国内実務研修開始時の、国際協力員所属機関からJSPS東京本部までの旅費
- ・研修中(2年間)の給与

募集について

人数

若干名

※採用実績:2017年度(16名)、2018年度(16名)

スケジュール

10月中旬頃 各大学等人事担当へ公募通知

12月中旬頃 **申込締切**

翌年

1月中旬頃 選考
(JSPS東京本部にて、候補者との面接と英語レベルチェックを行います。)

2月上旬頃 採用者を決定、所属機関へ通知

研修に関するお問い合わせはこちら

独立行政法人 日本学術振興会

国際統括本部 国際企画課 国際情報係

〒102-0083 東京都千代田区麹町5-3-1 麹町ビジネスセンタービル5F
TEL : 03-3263-1792 Email : overseas-o@jps.go.jp

JSPS 国際学術交流研修

URL : https://www.jps.go.jp/j-kaigai_center/kenshu.html

大学のグローバル化は、事務職員のグローバル化から 国際学術交流研修

独立行政法人日本学術振興会(JSPS)では、

全国の大学や大学共同利用機関の事務職員を対象に、研修を実施しています。

1年目は国内、2年目は海外で実務研修を体験。

国際交流に関する実務能力と広い視野を現場で磨く、2年間のプログラムです。

日本と世界の、学術をつなげ。

体験談... ①



世界の大学との比較から 所属大学の国際化を考える。

大阪大学/事務職員
井上 侑子
派遣先 : 北京研究連絡センター(2018年度)
現在の業務 : 希平会(日中高等教育交流連絡会)、日本人研究者ネットワークほか(執筆当時、同センターにて研修中)

東 京本部では、論博事業(論文博士号取得希望者に対する支援事業)と外国人研究者招へい事業を担当し、募集から実施報告に至る一連の過程を学びました。全国の大学等機関から提出される申請書類のチェックや審査業務に取り組む中で、大学において競争的資金獲得のサポートをする上で有益な知識を身につけられました。また、担当以外でも、英語のプレゼンテーションやインタビュー、記事の作成といった英語を使った実務を幅広く経験することができました。

北京研究連絡センターでは、希平会、日本人研究者ネットワーク、会計業務に携わっています。これらの業務を通じて、日本の大学の中国における活動状況や急速に進む中国の大学改革等について理解を深めることができ、日中間わらず他大学との比較の中で、様々な角度から所属大学の国際化について考えられるようにもなりました。

これから研修に参加される皆さんにとっても、本研修が実りあるものとなることを心から願っています。



希平会連絡会にて(大学等機関の担当者らと)

体験談... ②



人的ネットワークが一生の財産となる。

山口大学/学生支援部国際交流課国際企画係 主任
斉藤 康平
派遣先 : バンコク研究連絡センター(2017年度)
現在の業務 : 海外事務所、海外同窓会、国際交流協定、職員英語研修ほか

東 京本部では、多国間国際交流事業の研究拠点形成事業を担当し、募集、審査、採択等を通じた日々の業務に携わることで、事業の趣旨や運営方法について理解を深めることができました。

また、東南アジアのハブとして数多くの日本の大学が事務所を構え、日系企業も多数進出する等、多種多様な人が集まるバンコクでの海外実務研修では、NRCT(タイ学術研究会議)及びJSPSタイ同窓会と協力しての国際シンポジウム開催、タイ及び東南アジア諸国での事業説明会実施、管轄するタイ、バングラデシュ、フィリピン、ネパール及びインドネシアのJSPS同窓会支援等、様々な国際業務を経験することができました。

東京及びバンコクでの勤務は日々新鮮で、大学の業務とは違った視点で多くのことを学ぶことができました。そして、本研修中に出会った方々との人的ネットワークは、大学に戻ってからの業務に生かされるのはもちろんのこと、自身の一生の財産となることは間違いありません。



JAAT(JSPSタイ同窓会)理事会・総会にて帰任の挨拶

「国際協力員」として実務研修を体験し、所属機関の国際化への貢献が期待される4人の先輩たち。その生の声をご紹介します。

体験談... ③



研修後、副センター長としても勤務。 研修が自分のキャリアの土台に。

東北大学/総務企画部国際交流課 課長補佐
宮元 博央
派遣先 : ポン研究連絡センター(2002年度)
現在の業務 : 課の業務総括補助

ガ クシン(学振)って何?そのような状況から始まった国内研修では、研究交流事業の枠組み、英文メールやレター作成のイロハを学ぶとともに、ボン研究連絡センターでは、会計事務を担当する他、学術イベントの運営や所属大学のプレゼンを行ったりする等、貴重な経験を積むことができました。また、現地での生活を通じて文化・慣習等の違いを体験できたことは、国際交流を行う上での糧となっています。

帰国後は、大学本部にてJSPSや文部科学省の国際事業を担当することになり、研修で得られた知識や経験を活かすとともに、培った人脈にも助けられました。更に、同センターで副センター長として勤務する機会も得られ、事務所をマネジメントし、責任ある立場で海外との学術交流に携わったことは、大きな自信になっています。

その後、留学生交流や大学間協定等、国際業務経験を幅広く重ね、現在のポジションにいますが、この研修によって自分のキャリアの土台が形成されたと思います。



ボンセンター執務室にて

体験談... ④



英国での経験が、 キャリアのターニングポイントに。

熊本大学/自然科学系事務課 国際先端科学技術研究機構担当係長
熊谷 純一
派遣先 : ロンドン研究連絡センター(2012年度)
現在の業務 : 先端的国際共同研究の推進、外国人研究者招へい、国際シンポジウムの企画ほか

2 年間の研修を通じて、国際イベントを実行する力と将来を見通して考える力が身に付きました。東京本部では、HOPEミーティング、英国ではJSPS80周年記念式典の運営に携わりました。会場の選定や10数ヶ国からの参加者募集、多文化に渡る食事の手配等、国際イベントならではの運営の難しさを経験できたことは、現在の業務にも活かしています。

海外実務研修では、大学訪問やインタビューを通じ、英国は制度設計、大きなフレームワークを作るのが非常に長けており、日本よりも仕組みを構築する上手さがあることを実感しました。日本の大学も5年後、10年後を見据えた取組が重視されている今、将来に向かってのアプローチ法を英国で多少なりとも身に付けることができ、帰任後、国際研究機構の仕事をするうえで自分の指針となりました。

2年間で大きなチャレンジができ、キャリアのターニングポイントになった研修だったと確信しています。



ヘリオットワット大学訪問(JSPS London関係者)

JSPSだからこそ、実感できる成長がある。

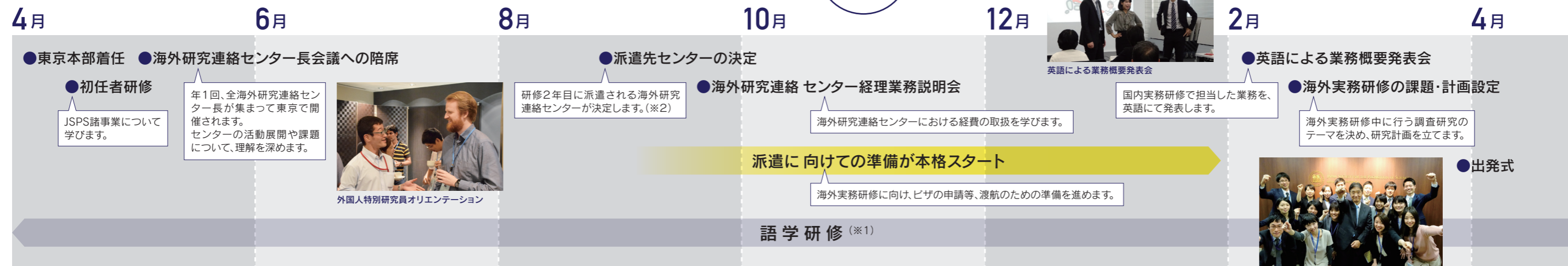
「国際協力員」として、国際交流に関する幅広い見識や高度な実務能力を養い、帰国後は、研修で培ったことを活かして各自の所属機関で活躍。

1年目：国内実務研修

東京本部に配属され、JSPSの各種国際交流事業を担当します。

1年目の目標

- 学術の国際交流において求められる知識、ノウハウを学びます。
- JSPSの諸事業について、理解を深めます。
- 海外実務研修に必要な、国際業務の実務能力を身に付けます。
- 国際業務を行うための語学力を向上させます。(※1)
- 海外出張、海外赴任に必要な各種手続の方法を学びます。



1年目の業務例

- ・国際シンポジウム、国際会議等の運営
- ・各種国際交流事業の申請受付、審査事務、採用者/採択プロジェクトの管理
- ・JSPSの事業で来日した外国人研究員のサポート(来日直後のオリエンテーション、日常管理、同窓会支援)
- ・海外研究連絡センターにおける経費の執行管理の補助
- ・JSPSの役員級の海外出張の随行及びそれに伴う各種準備
- ・大学の国際展開や世界の学術・高等教育政策に関連する外部シンポジウム等への参加 等

- 現地協力機関、現地研究者等との協働を通じて、真の国際業務感覚を身に付け、人脈を拡げます。
- JSPS諸事業や日本の大学等に関する海外への情報発信力を養います。
- 独自のテーマに基づく調査研究を行い、海外の学術・高等教育の動向についての知識を深めます。
- 海外での商習慣を知り、海外事務所における経費の執行管理について学びます。
- 国際業務を行うための語学力に、更なる磨きをかけます。(※1)
- 海外駐在員としての、日本からの出張者への支援業務を学びます。

2年目：海外実務研修

海外研究連絡センターのいずれかに派遣され、派遣先センターの業務に携わります。

2年目の目標



2年目の業務例

- ・海外研究連絡センターが現地大学等と共催するシンポジウム等の企画、運営補助
- ・現地大学や学術関係機関、現地研究者に対するJSPSの事業説明
- ・海外研究連絡センターのWebサイトの更新やニュースレターの編集
- ・現地の学術関係機関等が開催する各種イベントへの参加
- ・海外研究連絡センターにおける経費の執行管理
- ・自ら設定したテーマについて調査し、海外実務研修報告書を作成 等

海外研究連絡センター

JSPSの海外研究連絡センターのうち、右図の8センターのいずれかのセンターに派遣されます。



- ※1 国際協力員自ら語学学校を選定し、語学学校で講座を受講する経費を、JSPSが負担します。(1年目(国内実務研修時)は年間20万円まで、2年目(海外実務研修時)は年間40万円まで。)
- ※2 国際協力員本人の希望等を踏まえて決定します。(受入可能数の関係で、必ずしも希望するセンターにならないことがあります。)
- ※3 過去の国際協力員の報告書は、「海外学術動向ポータルサイト」(<https://www-overseas-news.jsp.go.jp/>)にてご覧いただけます。
- ※4 海外実務研修後、国際協力員所属機関とJSPSとが合意した場合は、JSPS東京本部において1年間さらに高度な実務研修を実施することができます。



センター主催でイベントを開催